

# インターンシップ(学外実習)に関する報告書

平成 23 年度

沼津工業高等専門学校

インターンシップ窓口  
沼津工業高等専門学校 学生課 教務係  
email : kyoumu@numazu-ct.ac.jp  
電話 : 055-926-5733  
FAX : 055-926-5882  
〒410-8501 沼津市大岡 3600

1.	インターンシップ参加者と公募数の推移.....	2
2.	インターンシップ事前研修.....	3
3.	インターンシップ受け入れ企業からのアンケート集計結果.....	4
4.	記述式質問 7, 8, 9 のまとめ.....	6
5.	インターンシップ参加学生からのアンケート集計結果.....	8
6.	今年度実施した改善点.....	11
7.	3年生対象のインターンシップ説明会.....	15
8.	まとめ.....	16
9.	平成24年度インターンシップスケジュール(予定).....	17
10.	学外実習生学生心得.....	18

## 1. インターンシップ参加者と公募数の推移

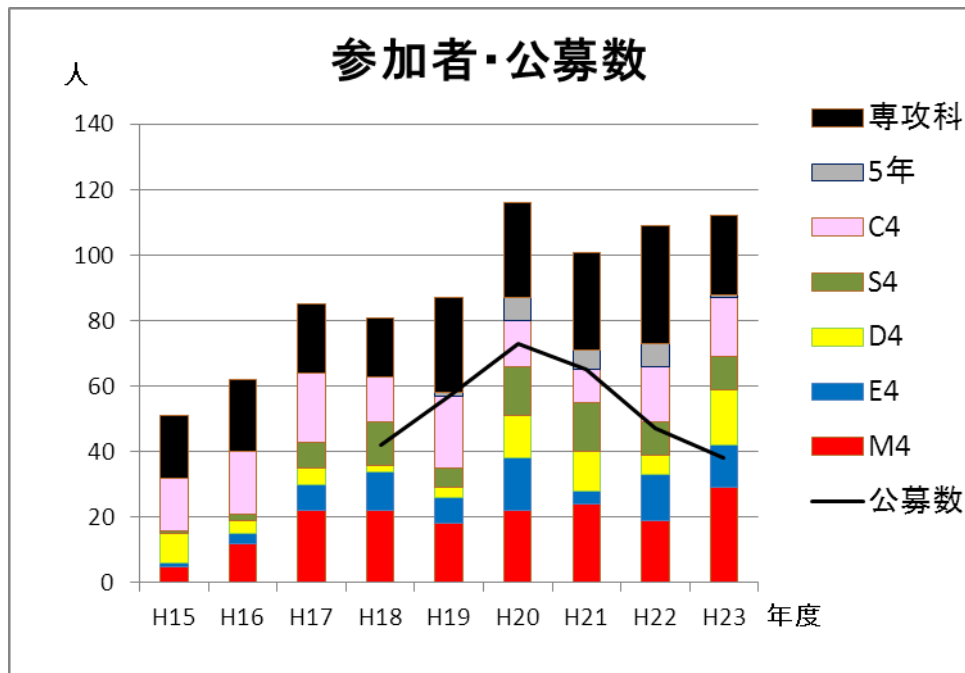


図1 インターンシップ参加者の推移

図1に、平成15年度から9年間にわたり、沼津高専からインターンシップに参加した学生数および、平成18年度以降の公募数の推移を示す。M、E、D、S、Cはそれぞれ、機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、制御情報工学科、物質工学科、その後の数字は学年を意味する。5年生は参加者が少ないので、5学科をまとめた。また、専攻科生はインターンシップが必須科目であり、全員参加している。公募数は、縦軸の人数を件数に読み換える。不況の影響からか、公募数が平成20年度をピークに減少に転じた。しかし参加者は、ほぼ増加傾向にある。特に今年度は震災の影響を心配してか、4年生の参加者が増加して過去最多となった。

参加学生の推移の、主な特徴を以下にまとめる。

1. 平成16年度に、インターンシップは単なる外部単位の取得ではなく、就労体験であるという認識を新たにした。その結果、参加に消極的であった学科の学生も、インターンシップに参加するようになった。特に平成20年度以降は、5学科とも積極的に参加している。
2. インターンシップ参加者の推移を見る限り、9年間を通じて増加傾向にある。これは、インターンシップに対する認識が広く受け入れ機関に浸透し、インターンシップの実施がシステムティックになったことや、教員や学生の不況に対抗しようとする積極性が、不況による受け入れ削減を上回ったことによると思われる。

## 2. インターンシップ事前研修

インターンシップに参加する学生に対して、下記要領で夏休み前に事前研修を行った。

### インターンシップ事前研修会

- 1) 日時：2011年7月13日（水）16：30～17：50
- 2) 場所：第一視聴覚教室
- 3) 内容：
  - 16：30 研修会に参加するにあたって（インターンシップ担当教員）
  - 16：32 挨拶・諸注意（教務担当教員）
  - 16：40 ガイダンス（インターンシップ担当教員）
  - 17：10 質疑・応答
  - 17：30 終了
- 4) 配布物：なし

上記3)の内容を以下にまとめる。

#### <研修会に参加するにあたって>

インターンシップは、進路を選ぶための貴重な情報収集の場である。注意事項をよく聞き、受け入れ機関に失礼のないようにする。

#### <挨拶・諸注意>

企業で働くことは、その企業の一員としての自覚が必要である。知財（企業秘密）については特に注意していただきたい。

#### <ガイダンス>

- ① 知的財産を守る
- ② 平成22年度企業アンケートの紹介
- ③ インターンシップ実施までにやるべき事
- ④ 参加時の持ち物
- ⑤ インターンシップ公募リスト閲覧方法
- ⑥ 必要書類
- ⑦ インターンシップ参加時の注意事項
- ⑧ ビジネスマナー
- ⑨ その他の心構え

### 3. インターンシップ受け入れ企業からのアンケート集計結果

平成23年10月、本校インターンシップを受け入れて下さった企業に対し、下記のアンケートをお願いした。なお、このアンケートは平成18年から6年間、受け入れて頂いた企業に対して取っており、その6年分の集計結果を、図2に示す。

#### 沼津高専のインターンシップに関するアンケート回答用紙

貴社名 \_\_\_\_\_ 所属部署名 \_\_\_\_\_

記入者名 \_\_\_\_\_ E-mail \_\_\_\_\_

質問1. 記入者の方は、インターンシップにはどのように関わりましたか？

→人事課系（主に手続きや企画を担当）、現場系（主に学生の直接指導を担当）

#### (5択)

質問2. 本校から参加した学生は、実習に積極的でしたか？（複数名参加の場合は平均値）

→非常に積極的、積極的、普通、消極的、非常に消極的

質問3. 本校から参加した学生の能力は、高いと感じましたか？

→非常に高い、高い、普通、低い、非常に低い

質問4. もし来年度も、本校の学生が御社を希望した場合、受け入れて頂けますか？

→是非募集したい、希望があれば、検討したい、難しい、遠慮したい

質問5. 学校側の、インターンシップに関する対応はどう感じますか？

→非常に丁寧、まあ満足、必要最小限、不十分、大いに検討改善を希望

質問6. インターンシップの企業としてのメリットは感じますか？

→大いにある、多少ある、学生による、あまりない、全くない

#### (以下文章形式)

質問7. 今後、インターンシップに参加する学生に伝えたい事があれば、お書き下さい。

質問8. インターンシップ実施に関して、ご要望・ご質問がございましたらお書き下さい。

質問9. その他何かございましたら、ご自由にお書き下さい。

ご協力いただきありがとうございます。

ご回答は沼津高専学生課宛 E-mail : kyoumu@numazu-ct.ac.jp FAX : 055-926-5882

お問い合わせ先 : 沼津高専 学生課教務係 大河 TEL : 055-926-5732

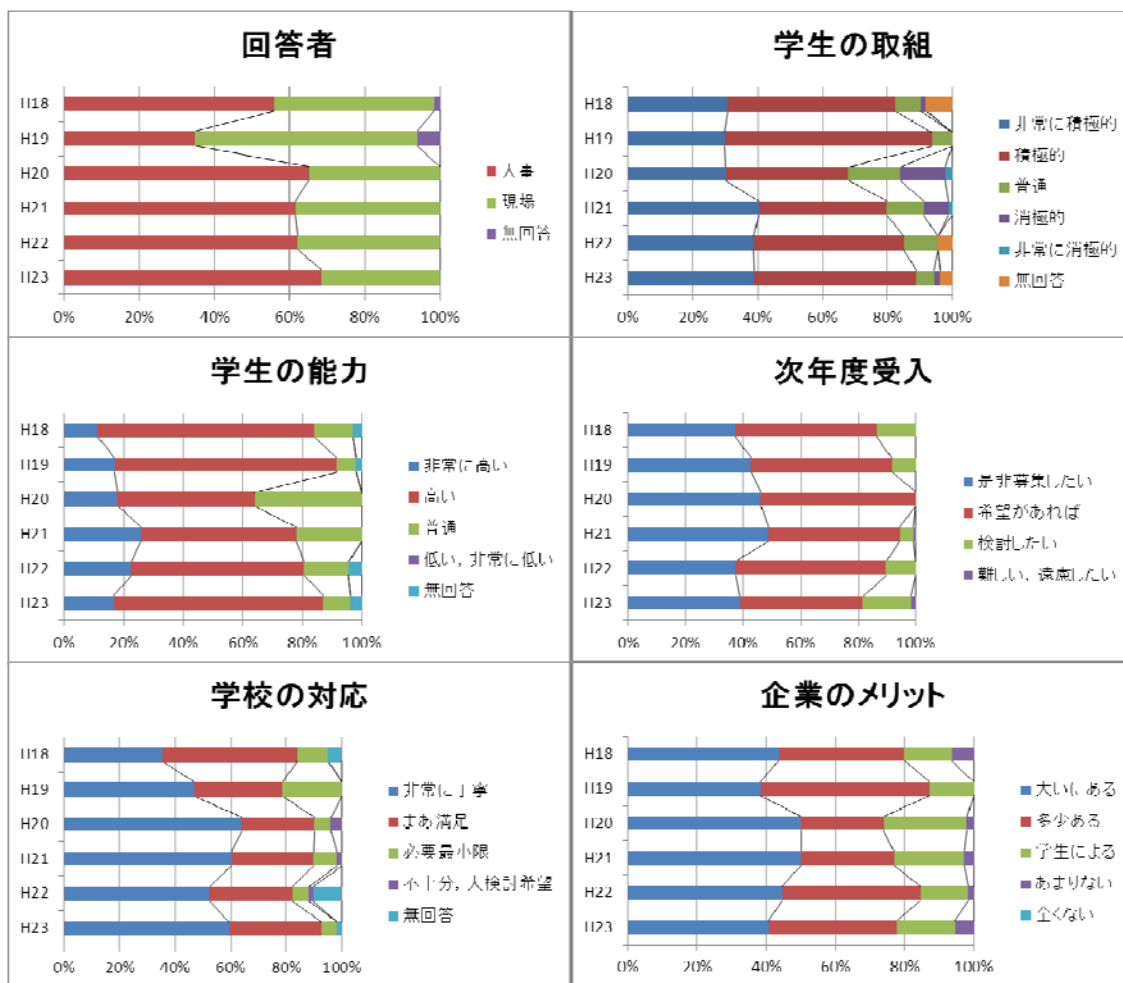


図2 受け入れ機関のアンケート集計結果

これらのデータより今年度の傾向として、以下のことが考えられる。

- (1) 人事系の回答が6割から増加傾向にあり、企業のインターンシップのシステム化が進んでいることがわかる。
- (2) 取組み方が非常に積極的・積極的と評価された学生は、ここ4年増加している。これは、高専内でキャリア教育が実施され、就職に対する意識が向上したことの表れと考える。喜ばしいことである。
- (3) 学生の能力に対する評価を見ると、学生の取組に対する評価と連動していることが分かる。すなわち、積極性があれば、能力は高く評価される傾向にあると言える。
- (4) インターンシップ受け入れの希望は、平成20年度を境に減少傾向に転じた。これは、不況による企業の余力がなくなったとも取れるが、学生の質の低下が表面化している恐れもある。
- (5) 学校の対応としては、非常に丁寧との回答が平成20年度より減少傾向にあったが、今年度は増加に転じた。経営状況が厳しい企業に対し、実施を企業に丸投げするのではなく、事前の企業への情報提供や、受け入れ企業との実施内容の調整が影響し

たのかも知れない。

- (6) 企業側のメリットが減少に転じた。これを企業からの厳しいメッセージと捉え、学生指導により力を注ぐ必要がある。

#### 4. 記述式質問 7, 8, 9 のまとめ

記述式の質問項目には、たくさんの企業の方々からご指摘、コメント、感想などをいただいた。それらを全てまとめ、件数の多い順に並べたものを以下に示す。なお文頭かっこ内の数字は回答件数である。

##### 質問 7 : インターンシップに参加する学生に伝えたいことは？

- (13) 積極的に発言したり、分からない事を質問したりしてほしい。吸収する気持ちを持ってほしい。消極的な学生が目立つ。完全に受け身の学生がいる。
- (8) 事前に何を学びたいのか確認し、目的を持って参加してほしい。単位取得のために参加しないでほしい。
- (6) インターンシップでの体験を、今後に生かしてほしい。必要なスキルや知識を知って、就職活動に生かしてほしい。
- (5) 一週間といえども企業には大きな負担である。まわりの社員に、若い刺激を与えてほしい。会社はテーマを用意して待っている。真摯な態度で臨んでほしい。準備したのは沼津高専の OB だったが、自分の経験から、実習内容を真剣に考え、準備していた。
- (3) 品質管理・安全衛生体制、就業意識の向上。現場を体感してほしい。
- (3) 事前に、受け入れ企業や業界について調べておくと、より充実した内容にできる。
- (2) 今回同様、今後も興味を持って参加してほしい。
- (2) 仕事の進め方、職場の雰囲気を体験する場として参加してもらえればよい。
- (1) 何が学べたのか、学生の本音が知りたい。
- (1) 日頃できない経験ができる場である。
- (1) 直接本人に伝えた。
- (1) 社会に出ると様々な困難に出くわすが、諦めず我慢して乗り越えれば、新しい世界が開ける。
- (1) パンフレットやホームページでは伝えきれない社員の生の声や熱い思いを肌で感じてほしい。
- (1) 普段から規則正しい生活を心掛けてほしい。
- (1) 服装をしっかりとってもらいたい。
- (1) ビジネスマナーを学んで、参加してほしい。
- (1) まわりの人にかわいがってもらうことが、実習を楽しくするコツだと思う。
- (1) 強く就職を希望する人や、地元で頑張って働こうとする人は、是非参加してほしい。
- (1) ソフトウェア業界やものづくりに興味のある学生は、是非参加してほしい。
- (1) 沼津高専の先輩が何人かいるので、気軽に参加してほしい。
- (1) 就職先候補として企業を選ぶのではなく、実習内容や技術分野で考えて行動してほしい。
- (1) 実習中の連絡事項など、重要な事はメモを取る習慣を付けてほしい。

##### 質問 8 : インターンシップ実施に関して、要望・質問は？

- (4) 進学希望の学生だったので、あまり関心がない気がした。就職希望の学生を受け入れたい。参加する企業に興味があり、意欲的に取り組む学生を希望する。
- (3) 実施期間をのばしてほしい。一ヶ月程度実施したい。
- (2) 採用に結びつけば、嬉しく思う。
- (2) 実施内容が希望通りにならない(授業内容とリンクしない)事があるので、承知してほしい。
- (2) 定員以上の希望者がある場合は選考するので、了承頂きたい。

- (1) 生徒さんの、感想や要望などがあつたら参考にしたい。
- (1) 来年度も受け入れるので、是非応募してほしい。
- (1) インターンシップ中の先生の視察は、別途日を設けてほしい。
- (1) テスト期間を事前に教えてほしい。
- (1) 次年度以降、また受け入れる際には、先生に訪問頂きたい。
- (1) インターンシップ学生評定書を持参頂きたい（多くの学生は持参している）。
- (1) 今回は機械工学科の学生を受け入れたが、他科の学生も是非受け入れて、会社に対する理解を深めてもらいたい。
- (1) 今後も、日程について調整させて頂きたい。
- (1) インターンシップは技術者教育に必須である。内容を企業まかせにするのではなく、学校側からの要望があるべき。
- (1) これまで物質工学科の学生を主に対象として実施しているが、機械工学科、電気電子工学科の学生も参加してほしい。
- (1) 引き続き、優秀な学生に参加して頂きたい。
- (1) 実習中の先生の訪問での話は、大変参考になった。今後も、インターンシップや就職について、情報交換させて頂きたい。
- (1) 会社仕様の受講証明書を発行したが、問題は無いか（問題ないと回答済）。
- (1) 必要書類を学生に周知しておいて欲しい。
- (1) 物質工学科の場合は、一週間以内の期間でお願いしたい。
- (1) 受け入れの回答の、猶予期間を十分頂きたい。

**質問9：その他にかありましたら。**

- (1) 日本語が書けない学生が増えているので、日本語教育をしっかりとやってほしい。
- (1) 沼津高専の、職業意識に対する高さを感じた。
- (1) 後日、挨拶に伺いたい。
- (1) 会社は若い人材を求めており、非常に優秀な学生が参加してくれて、大変感謝している。
- (1) 最終日の発表で、良く理解し、視野の広がり、進路について、色々感じるものがあつたようで嬉しく思う。
- (1) 採用計画の関係で、来年度受け入れは難しいが、それ以降採用を検討する際は、ぜひお願いしたい。
- (1) 遠距離になるので、受け入れの際は、始業時間を遅らせるなどの配慮をする。
- (1) 参加してくれた学生からのアドバイスに、感謝している。
- (1) 学生にとって、単位以上の意義があるのか興味がある。

上記回答を、1) 学生に対する要望、2) 学校に対する要望、3) インターンシップの位置付けに関する事柄、4) その他の4種類に分類すれば、右記円グラフのようになる。半分以上が学生のインターンシップ実施に関する要望であつた。2月に実施した3年生対象のインターンシップ説明会時に、学生に対する要望を、学生達に伝えた。また、来年度インターンシップ担当者と共に、学校に対する要望について検討する予定である。

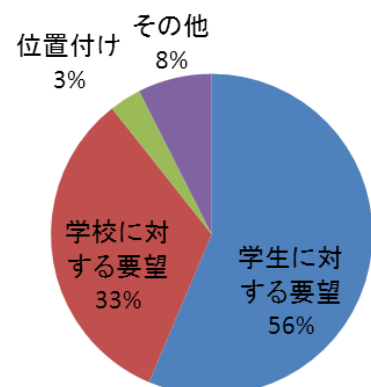


図3 自由記述集計

## 5. インターンシップ参加学生からのアンケート集計結果

平成23年10月、インターンシップに参加した本校学生（本科生，専攻科生）に対し，下記のアンケートを実施した．参加学生に対するアンケートは，平成18年から6年間にわたり取ってきた．その目的は，学生の意識調査および参加の実体を把握し，次年度実施時の参考とするためである．

一昨年度までのアンケートでは，具体的かつ詳細に調査するために，質問項目や選択肢を多く設けていた．しかし，集計作業の手間の割に傾向がつかみづらかった．そこで昨年度，質問項目を大幅に絞り込み，学生が答えやすく，かつ次年度参加学生に参考となる内容に見直した．その質問項目を以下に示す．また，昨年度・今年度の2年間にわたる集計結果を図4に示す．なお，満足度のみ6年間を通して調査してきたので，あわせて示した．

### 平成22年度より実施したインターンシップ学生用アンケート（集計項目）

- (1) 期間中の宿泊場所  
①自宅，②下宿，③社員寮，④ホテル，⑤その他
- (2) 通勤方法  
①徒歩，②自転車，③バイク，④電車・バス
- (3) 通勤時間  
①30分以内，②1時間以内，③90分以内，④それ以上
- (4) 主な実施内容  
①見学，②研修，③実技，④その他
- (5) 受け入れ企業でのまとめ  
①プレゼン，②報告書，③面談，④なし
- (6) 参加した主な目的  
①単位取得，②能力向上，③就労体験，④適性探索，⑤その他
- (7) 不足していたと感じる事前準備  
①安全・知的財産，②企業研究，③能力・姿勢，④マナー，⑤技能，⑥その他，⑦不要
- (8) 満足度  
①非常に有意義，②概ね有意義，③あまり意義なし，④全く意義なし
- (9) 成果  
①能力が向上，②就労体験できた，③適性が分かった，④その他



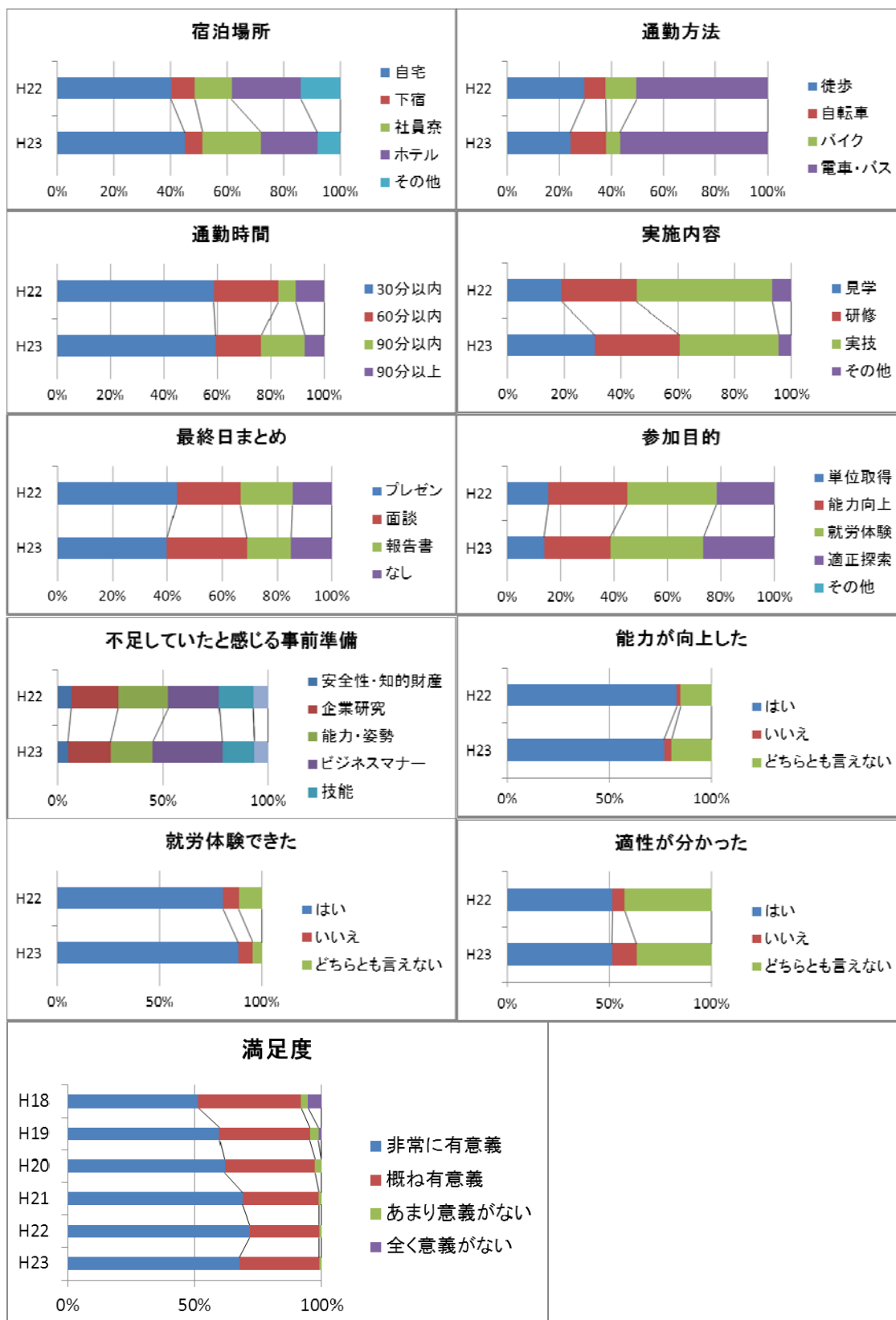


図4 参加学生のアンケート集計結果

**(1) 宿泊場所**

昨年同様、約半数が通える場所であったようだ。しかしインターンシップの趣旨からすれば社員寮がベストである。昨年度に比べ倍増したのは、インターンシップが浸透したことによる、企業側の対応と期待したい。

**(2) 通勤方法**

インターンシップがカリキュラム上の1科目である以上、学校で認めている通学用交通手段のみを許可している。したがって、車や許可の下りていないバイクは利用できない。公共の交通手段では通勤が厳しい場合、教員から受け入れ機関に、事前に相談することが必要である。今年度、公共機関での通勤学生が増えた。遠方でも何とかして参加しようとする気持ちの表れかも知れない。

**(3) 通勤時間**

2年を通して6割程度が30分以内、8割前後まで1時間程度あれば通える距離であった。受け入れ機関での就労体験が主な目的なので、なるべく地元企業の企業を選んで受け入れ交渉をする努力も必要であろう。

**(4) 実施内容**

昨年度に比べ、見学が大幅に増え、実技が減少した。不況や震災の影響かも知れない。見学することも、その企業を知るには効果的だが、学生の能力や主体性を発揮することは難しい。見学内容を最後に報告するなど学生が能動的に活動する場を設けていただくような働きかけを、次年度は是非、行いたい。

**(5) 最終日のまとめ**

総括的な内容を実施していただいた企業が8割を超え、その中でも、面談が若干増加した。これは大変喜ばしいことである。インターンシップ担当の方や人事部の方などと直接、実施した内容の話をするには、実施内容を振り返るための最も好ましい手法と考える。今後は是非とも、最終日の面談を受け入れ機関にお願いしていきたいと考える。

**(6) 参加目的**

昨年度に比べ、適性探索と答えた学生が増加した。これは、やりたいことがあるが、本当にそれが自分に向いているのか試した／やりたいことが見つからず、とりあえず気になる企業の仕事内容を体験してみた、という二通りの見方がある。注意すべきは後者である。受け入れ機関によっては、就職を前提に学生に参加してほしいとの要望がある。もし後者のような学生がそこへ参加したなら、受け入れ側とのミスマッチが生じると思われる。しかし受け入れ企業には、後者のような学生の為にも、あくまで就労体験の場として、インターンシップを捉えていただければと願う。ただし、企業にお世話になるからには、積極的に参加するよう、引き続き学生を指導する。

#### (7) 不足していたと感じる事前準備

ビジネスマナーと答えた学生の割合が増加した。寮生活である程度の生活マナーは身に付いているはずである。しかし、仕事におけるマナーは、それとはかなり異なるので、事前教育にマナーに関する内容を増やすべきであろう。次年度担当教員に願います。

#### (8) 成果

参加目的が、適性探索であると答えた学生が増加したにもかかわらず、適性がわかったと回答した学生は、2年共に約半分に留まっている。1～2週間という実施期間を長くすべきだというご意見を、受け入れ機関から頂いているが、現在の教育システムでは難しい。したがって、実施内容がある程度表面的なことに限られるのはやむを得ない。そこで、短期間で適性判断や有効な就労体験をするには、事前の受け入れ機関との実施内容について、今以上の調整が大切であると考え。今後実施内容について、ある程度統一した受け入れ機関への働きかけを検討していくつもりである。具体的には最低でも、実施テーマ・実施内容・実施方法について事前に確認し、それを指導教員・参加学生がよく把握した上で実施する。

#### (9) 満足度

平成18年より5年間、満足度は向上し続けたが、今年度は若干低下した。震災の影響があったのかも知れない。しかし、意義がないと回答した学生は確実に減少している。受け入れ機関における実施内容が、学生にとってより充実したものになってきたことが伺える。受け入れ企業に感謝すべきである。

### 6. 今年度実施した改善点

昨年度のインターンシップの反省に、インターンシップ担当教員より、インターンシップ受け入れ決定までの手続きに関する意見が多く寄せられた。受け入れ企業への申込み方法には、大きく分けて以下の3パターンがある。

- ① 企業より学校（教務係）に届いた募集案内に応募
- ② 企業よりインターンシップ担当教員（特定教員）に届いた募集案内に応募
- ③ インターンシップ担当教員より企業に受け入れ可否を問い合わせる

それぞれのパターンにおいて、作成する書類や提出方法の認識が学内で統一されておらず、学内だけではなく、受け入れ企業とのトラブルに発展するケースもあった。また、受け入れ機関からのアンケートでは、参加学生に積極性や目的意識を持ってほしいという意見が多く出た。そこで今年度、以下の改善を行った。

- (1) インターンシップ応募までの手続きの明確化
- (2) 必要書類の整理と内容の見直し（本科生用、専攻科生用）
- (3) 学生のインターンシップに対する意識の向上

まず(1)について、以下のフロー図（図5，6，7：上記①～③のパターンに対応）を作成し、学内 Web 上に置いた。これによって来年度は、手続きに対する認識の差違に起因するトラブルは解消されると期待する。

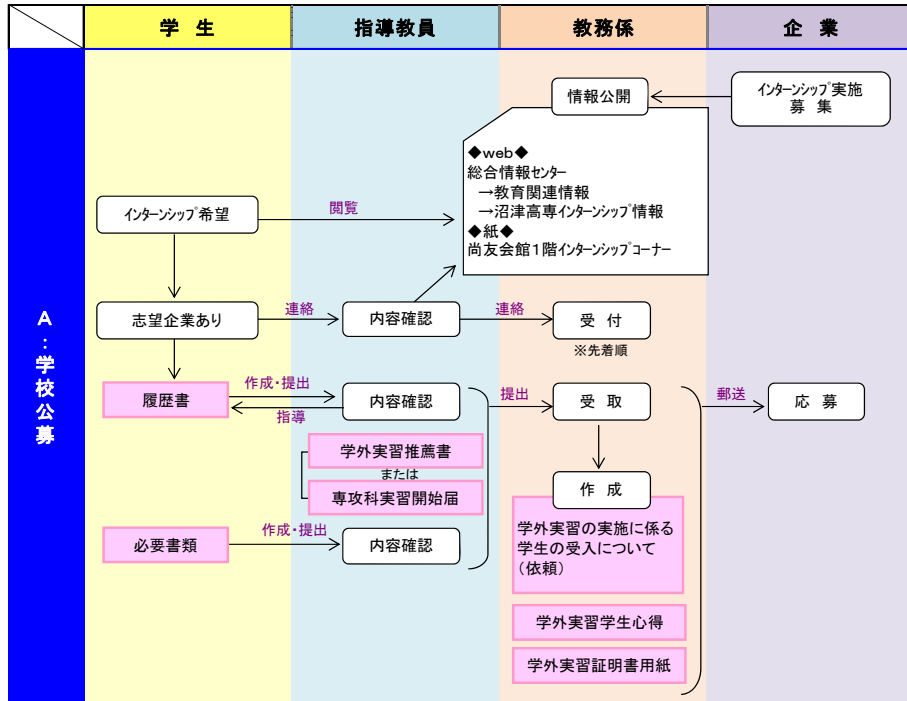


図5 企業より学校（教務係）に届いた募集案内に応募

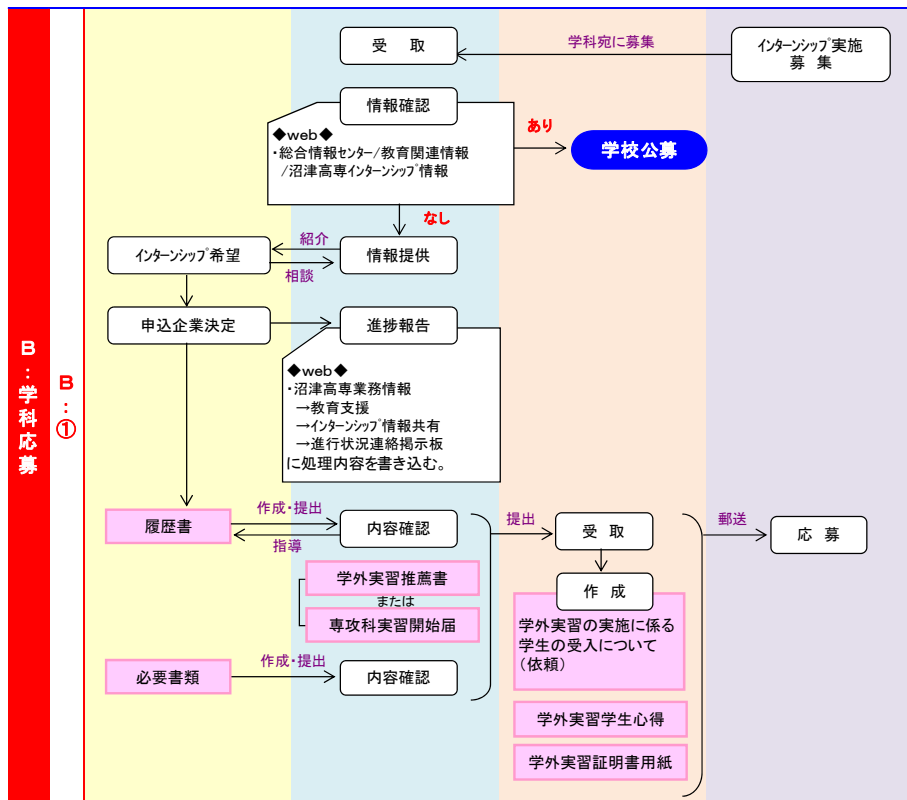


図6 企業よりインターンシップ担当教員（特定教員）に届いた募集案内に応募

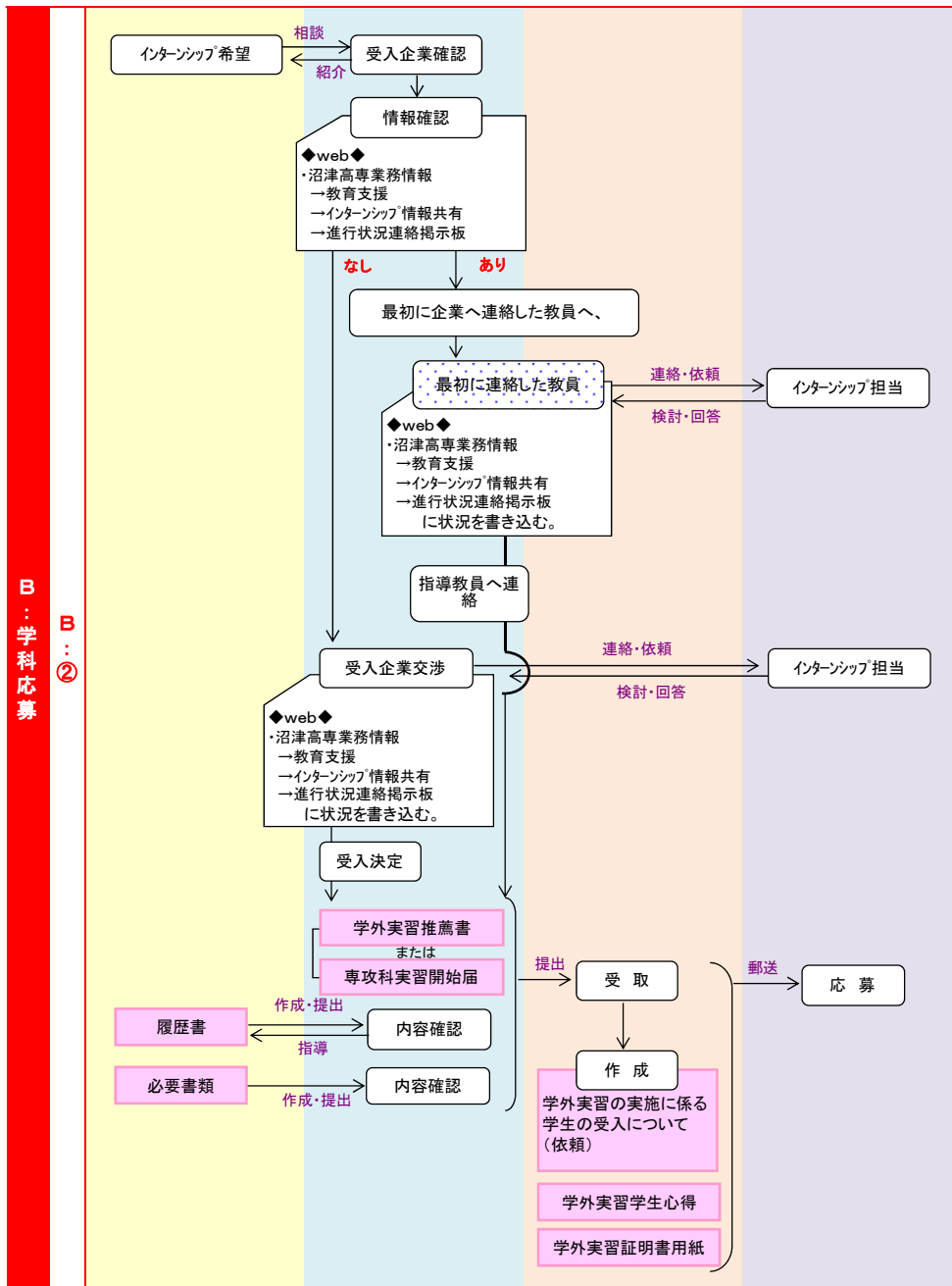


図7 インターンシップ担当教員より企業に受け入れ可否を問い合わせる場合

次に、(2)については学内 Web にて、図8のように本科生用・専攻科生用の書類を分けておき、教員や学生がダウンロードできるようにした。上述したフロー図に従ってこれらの書類を準備、提出することで、主として学内のインターンシップに関する作業効率をアップさせる。

◆本科生用◆	◆専攻科生用◆
<p>◎<b>本科生用書類の説明</b> ※希望学生は必ず読む事!</p> <p><b>[実習前]</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <a href="#">沼津高専インターンシップ履歴書【学生】</a></li> <li>2. <a href="#">学外実習推薦書【指導教員】</a></li> </ol> <p><b>[実習中]</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. <a href="#">実習日誌【学生】</a></li> </ol> <p><b>[実習後]</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. <a href="#">インターンシップアンケート【学生】</a></li> </ol> <p><b>[参考:教務係作成書類]</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. <a href="#">学外実習の実施に係る学生の受入について</a></li> <li>6. <a href="#">学外実習学生心得</a></li> <li>7. <a href="#">学外実習証明書</a></li> <li>8. <a href="#">礼状</a></li> <li>9. <a href="#">インターンシップアンケート【企業】</a></li> </ol>	<p>・専攻科のWeb上の<a href="#">専攻科実習規則</a>に、規則や手続き書類が載っています。</p> <p>・<a href="#">インターンシップに関する連絡【学生向け】</a> ※希望学生は必ず読む事!</p> <p>・<a href="#">インターンシップに関する連絡【教員向け】</a></p> <p>---以下、専攻科必要書類---</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<a href="#">様式1 開始届</a></li> <li>・<a href="#">様式2 専攻科実習報告書</a></li> <li>・<a href="#">様式3 専攻科実習証明書</a></li> <li>・<a href="#">様式4 専攻科実習日誌</a></li> <li>・<a href="#">様式5 沼津高専インターンシップ履歴書</a></li> <li>・<a href="#">インターンシップアンケート</a></li> </ul>

図8 インターンシップ関係書類の学内 Web への掲載

最後の(3)については、学生食堂や売店のある建物の入口付近に設置した「インターンシップ掲示板」にて、以下を掲示した。

- ① 過去2年分のインターンシップ申し込みリスト：学科別（受け入れ可否含む）
- ② インターンシップの内容や実施場所をまとめた資料
- ③ 参加者へのインターンシップについてのインタビュー

図9に②を示す。また、教務係に届いたインターンシップ募集案内をファイルに閉じ、学生が自由に閲覧できるようにした。



図9 インターンシップ掲示物（上記②）

## 7. 3年生対象のインターンシップ説明会

前述した反省事項をふまえ、次年度インターンシップに参加する可能性のある学生、すなわち現3年生に対して、下記要領でインターンシップ説明会を行った。インターンシップの行き先の調整を、年度が開始する4月からスタートするので、春休み中に行き先候補を挙げておくよう、学生に指導した。

### インターンシップ説明会

- 1) 日時：2012年2月1日（水）14：50～16：00
- 2) 場所：第一視聴覚教室
- 3) 内容：
  - 14：50 開会の挨拶・心構え（教務主事）
  - 14：52 概要説明（インターンシップ担当教員）
  - 15：05 各学科の実施報告（各学科4年担任教員）
  - 15：45 質疑・応答
- 4) 配布物：なし

上記3)の内容を以下にまとめる。

#### <開会の挨拶・心構え>

実社会を知る大切な機会である。「技術者とは何か」を、企業でよく見てくる。単位認定があるので、真剣に取り組む。

#### <概要説明>

ある企業からの指摘、過去9年の参加者の推移、企業アンケート集計結果、インターンシップとは何か、学生アンケート集計結果、応募情報閲覧方法、今後のスケジュール

#### <各学科の実施報告>

##### 機械工学科

H23実績、心構え、事例報告（参加学生からの報告）

##### 電気電子工学科

H23実績、心構え、インターンシップ募集と求人との関係、企業担当者からのコメント

##### 電子制御工学科

H23実績、事例紹介（2件）、実施後の印象（学生・教員）

##### 制御情報工学科

H23実績、事例紹介（2件）、心構え

##### 物質工学科

H23実績、参加者からのメッセージ、受け入れ企業の考え方の違い、心構え

## 8. まとめ

インターンシップは学生に対して、将来を左右するほど強い影響力を持つと言っても過言ではない。だからこそ、インターンシップに関する教員の教育的指導は、年を追うごとに熱を帯びてきている。それは今年度の2月頭に実施した、3年生対象の「インターンシップ説明会」での、各インターンシップ担当教員が学生達に話をしたインターンシップにおける心構えの内容からも、ひしひしと伝わってきた。それだけ教員は、受け入れ企業との交渉や調整の中で、実社会の厳しさと学生達の甘さを実感しているのかも知れない。今後も学生に対して、より早期に、より具体的に、実社会に出るために必要なことは何かを、伝えていかねばならない。また、企業が求める人材とは何かを、教員自身も学んでいかなければならない。

さて、その重要なインターンシップにおける大きな問題が一つある。それは、インターンシップに対するとらえ方の違いである。ある企業は、貴重な就労体験の場として参加し、実社会をよく見て参考にしたいという立場で実施している。学生にとってはプレッシャーを感じることなく参加でき、ありがたいことである。しかしある別の企業は、大学進学希望者は遠慮したいとの立場である。すなわち、その企業への就職を考えている学生が参加すべきとの認識である。おそらく、後者の立場で受け入れている企業が多いと思われる。そこで、受け入れ企業の方にご理解いただきたいと思うのは、4年の前期が終了した時点では、まだ進路について迷っており、どの道に進むべきか決めかねている学生も少なくないことである。高専では、4年次から本格的な専門教育を開始していて、その学習を通じて自分の適性を学生は判断する。したがって、自らの適性を考えるためのよき材料として、インターンシップに参加する学生がいることを、企業へ伝えていくべきである。

とはいえ、受け入れ企業がインターンシップのために割く人的コストは膨大である。学生が、企業が提供するボランティアという意識で参加することは、絶対にあってはならない。自らの意志で参加する以上、その企業で働くことを将来の選択肢の一つとして考え、企業研究など準備することは当然必要である。今後もその方針で学生を指導していく。なお、受け入れ企業の方に是非ご報告したいことがある。それは、インターンシップ終了後の報告会を見て、その企業に興味を持ち、進路の候補にする学生が現れることである。また、どちらかと言えば社会勉強という認識で参加した学生が、参加後に、その企業への就職を強く希望することもあった。つまり、受け入れ企業により、入念に準備されたインターンシップは、学生の将来を大きく変える力を持っていると言える。そのあたりを、受け入れ企業にご理解いただき、今後とも是非、多くの学生を受け入れていただけるよう働きかけていくつもりである。

以下参考までに、平成24年度インターンシップスケジュール案および、学生便覧に掲載されている学外実習学生心得を掲載して本報告を終わる。



## 9. 平成24年度インターンシップスケジュール（予定）

### 2～3月

- 4年新担任教員との新年度インターンシップ事前打合せ

### 4月

- インターンシップ募集案内掲載開始（学内 Web）
- 学科毎のインターンシップガイダンス
- 行き先希望調査

### 5～6月

- 担任教員による企業への交渉
- 公募のある企業への応募

### 7月

- 事前レポート・必要書類（履歴書含む）作成
- インターンシップ事前研修会（全体・クラス単位・講義など）

### 8～9月

- インターンシップ実施（8/10(金)～9/18(火)が夏期休業）
- 教員による視察

### 10月

- 受け入れ企業からの評価
- 参加学生のインターンシップ報告書提出・報告会（学科毎）
- 参加学生に対するアンケート調査
- 受入れ企業への礼状送付・アンケート調査

### 1月

- インターンシップ報告書作成
- 3年生対象インターンシップ説明会（概要・データ紹介・反省・注意等）

### 2月

- 担当教員による評価

### 3月

- 単位認定

## 10. 学外実習生学生心得

学外実習（以下「実習」という）は企業等において実際の工業技術を体得するため、専門課程の一環として履修するものであり、実習に従事する学生はこの心得を守らなければならない。

- 1) 学生は、この心得のほか必要な事項、細目について、実習開始前に学外実習指導教員の指示を受けること
- 2) 学生は、実習先の監督者の指導を受けるとともに、次に掲げる事項を守り、実習の目的を十分に達成するよう心がけること。
  - (1) 規律
    - ① 出退勤時間、休憩時間を守ること、無断で欠勤、遅刻、早退等は絶対にしないこと。
    - ② 社内規律、作業内規等の規則に従うこと。
    - ③ 学生として良識ある行動をとり、礼節を守ること。
    - ④ その他社内秩序を乱さないよう留意すること。
  - (2) 社内機密保持
    - ① 無断で設備、製品、図面等社内の写真撮影をしないこと。
    - ② 無断で指定以外の場所に立ち入らないこと。
    - ③ 許可なく、製品、研究、文献、ソフトウェア、図面、談話等を社外に漏らさないこと。
    - ④ 教員へ提出する報告には、企業秘密事項を含めないこと。
  - (3) 安全保持
    - ① 監督者の指示・説明に従い、独断で作業をしないこと。
    - ② 実習先の作業心得、安全心得をよく守り、細心の注意を払い、事故を起こさないよう心がけること。
    - ③ 万一、事故又は異常事態が生じた場合は、直ちに、監督者に報告するとともに、すみやかに指導教員に連絡すること。
  - (4) 作業態度
    - ① 監督者の指示に従い、独自の行動はとらないこと。
    - ② 実習先の社員等に対しては、努めて謙虚な態度で接すること。
    - ③ 必要以外の設備等には手を触れたりしないこと。
    - ④ 実習期間中は、毎日、作業の終了を監督者に報告すること。
  - (5) 用具の使用
    - ① 無断で社内の用具を使用しないこと。また、使用後は必ず元の場所に返しておくこと。
    - ② 許可なく物品の搬入・搬出をしないこと。
- 3) 学生は、実習期間中、常に指導教員と連絡を保つとともに、実習内容の変更があった場合は、速やかに指導教員に報告すること。
- 4) 学生は、実習終了後、実習報告書を実習先に提出するとともに、すみやかに経過を指導教員に報告すること。またその際、企業秘密事項が含まれていないかを確認すること。

学生便覧（平成23年4月改訂）より抜粋